

2024 JUA/EAU Academic Exchange Programme 参加報告

赤井 焔 秀 則 (福島県立医大)

福島県立医科大学医学部 泌尿器科学講座 赤井焔秀則と申します。今回、2024年のJUA/EAU Academic Exchange Programmeにご選出頂き、パリとオランダの2カ国に渡る2週間のプログラムを経験させて頂きました。今回の参加をお取り計らいいただいた国際委員の先生方に、心から感謝申し上げます。

今回のプログラムでは、私の他には日本から大阪大学大学院医学系研究科泌尿器科学講座 山本 致之先生が参加されておりました。また、TUA/EAU Academic Exchange Programmeとして台湾から3人の先生が、KUA/EAU Academic Exchange Programmeとして韓国から2人の先生が参加されておりました。2週間、計7人で行動を共にしました。

まず、4月2日～4日はパリにあるUniversity Hospital La Pitié-SalpêtrièreでMorgan Rouprêt教授にご指導いただきました。パリには日本からフランクフルトを経由して向かいましたが、17時間くらいかかりました。プログラム上、到着数時間後に自分のこれまでの研究成果を発表することになっており、慌ただしくはありましたがなんとか無事に発表することができました。その後は手術見学やカンファランスに参加させていただきました。手術は主にロボット支援手術が行われていましたが、埋没型で辺縁不整な4cm以上の腎腫瘍を、腫瘍を露出することなくロボットで部分切除していたのが印象的でした。カンファランスでは、下部尿路機能障害患者に対する治療を、膀胱内圧測定の結果を踏まえて活発に議論されていました。言葉は違えど、やはり話し合うポイントは同じなんだと改めて感じました。

4月5日～8日は同じくパリで開催された第39回欧州泌尿器科学会(the 39th Annual European Association of Urology Congress)に参加しました。Joint Session of the European Association of Urology (EAU) and the Japanese Urological Association (JUA)が行われており、日本・海外の先生方の発表と議論を拝聴させて頂きました。英語で活発な議論を繰り広げる先生方を見て、自分の語学がいかにも不十分であることを痛感させられました。また、学会期間中に開催されたEAU President's & International Friendship dinnerにご招待いただきました。パリの格式あるホテルで開催されたのですが、ドレスコードが「ブラック タイ」だったので我が人生で初めてタキシードを着ました。これもまた良い経験であったと思います。dinner中に壇上でJUA/EAU Academic Exchange Programmeの修了証を頂きました。頂いた修了証は紙ではなく、木と金属プレートで構成された立派なものでした。この修了証に見合う仕事をしていかなければならないと、気が引き締められました。EAU congressが終了したら、オランダに移動するためにその足で駅に向かい、高速鉄道「ユーロスター」に乗りました。ユーロスターはかなり大きな列車でしたが、その割に乗車スペースが少ない印象を受けました。でも、揺れも少なく快適な移動となりました。

4月9日～11日はオランダのAmsterdam UMC-Location VUmcでJeroen van Moorselaar教授にご指導いただきました。様々な領域の手術が行われておりました。ロボット支援前立腺全摘除術や膀胱全摘除術などはもちろん、陰茎形成術も見学させていただきました。陰茎形成術を見学したのは人生で初めてでしたので、非常に



写真1 University Hospital La Pitié-SalpêtrièreにてMorgan Rouprêt 教授と



写真2 Amsterdam UMC-Location VUmcにてJeroen van Moorselaar 教授・プログラム参加者らと



写真3 EAU President's & International Friendship dinner にて JUA/EAU Academic Exchange Programme の修了証を頂きました。

い経験となりました。こちらでも私の研究成果を発表する機会を頂きましたが、今度は余裕をもって準備・発表できたので議論も活発に行うことができ、今後の私の研

究方針についてまで考えることができました。

日本に帰る途中、飛行機が遅延してしまい、8時間フランクフルト空港に閉じ込められてしまいました。飛行機のチケットを変更するだけでも一苦勞で、「フランクフルト空港で一泊しないといけなくなっちゃうかな？」という考えが一瞬頭をよぎりましたが、なんとか宿泊数を増やすことなく帰国することができました。

今回、もちろん手術見学やカンファランスでの議論、学会参加はよい経験となりましたが、同年代の台湾や韓国の先生方と色々話すことができたのも非常に有意義でした。アジアの他国の泌尿器科の診療体制や泌尿器科医キャリア形成、日常生活なんかを聞くことができました。そして、文化の違う方々と一緒に行動していく上で、コミュニケーションをとって関係性を構築していくことの大切さも実感することができました。

最後になりましたが、このような日本では経験することが難しい貴重な機会を与えてくださいました JUA, EAU の関係者の方々、また私達を快く受け入れていただいた病院関係者の方々に心より感謝申し上げます。